

令和元年度別府市人権教育学級閉級式

日 時 令和2年2月13日(木) 11:30~12:00

場 所 別府市役所 5階大会議室

1 はじめのことば

2 あいさつ(概要)

① 別府市教育委員会 教育長 寺岡 悌二 (市長代理)

本日は、お忙しい中を第38回人権教育学級の閉級式にご参加いただきありがとうございます。思えば、昨年6月6日に開級式を開催しましたが、早いもので1年が過ぎ、本日を迎えました。この一年間、皆様には、いろいろな講座で講師の方を中心に、講演、班での討議、そして、交流会等々を通して、様々な人権課題8課題を中心とした内容を受講されたのではないかと思います。

国の方もご存じの通り、部落差別解消法やヘイトスピーチ解消法、子どもの貧困等々、様々な法が整備され、偏見差別に対する社会づくりに向けて着々と整備されていることを大変喜ばしく思っているところでございます。・・・(中略)



寺岡教育長

さて、別府市の各幼稚園、小・中学校では、「聴く」ということを徹底しています。「聴く」をベースとした幼稚園・学校経営をしていくということで、どの授業でもどのクラスでも静かで落ち着いた、それも抑圧された静けさではなく、子どもたちが本当に相手を大事にするという主体的な「聴く」ということが徹底されています。家庭でも「聴く」ということを大事にして、子どもの声に耳を傾けてもらえたらと思っています。・・・(中略)

ある保護者の方は、子どもとコミュニケーションをとるために、台所の横で勉強をさせるそうです。そうすることで子どもとコミュニケーションを図りながら進捗状況を確認できるということです。いろいろなケースがありますが、できましたら、子どもに寄り添って子どもの学習の定着を見ながら、コミュニケーションをとるのがいいと思います。・・・

また、不登校の問題もあります。子どもは、夜の9時、10時に自分の部屋に入るので、親は、「うちの子は9時10時には寝ていますよ。」と言うけれど、実は、夜中の1時、2時までゲームをしたりスマホをしたりしているのです。それで、睡眠障害になり、トラブルになったり、学校嫌いになったりするというケースもあります。子どもをよく知ることが、その子の人権を支えることになるということを今一度考えてほしいと思います。・・・(中略)

先日、佐賀市の大隈重信記念館の視察に行ってきましたが、重信の母親が小さい時から重信(幼少期の名前は八太郎)を諭した5つの教えがありました。

1つ目は、「けんかをしてはいけません」2つ目は「人をいじめてはいけません」3つ目は「いつも先を見て進みなさい」4つ目は「過ぎたことはくよくよ振り返ってはなりません」5つ目は「人が困っていたら助けなさい」この5つを幼少の頃からしっかりと教育したそうです。こういうことは、とても大事なことで、幼児期、小学校低学年ぐらいいまにそういうことをしっかりと身につけさせてあげるのが子どもの人権の保障にもつながっていくと思います。・・・(中略)

どうぞ、この一年間、人権教育学級で学んだことを全家庭・学校・地域で生かし、子どもたちが幸せになれるような家庭や学校、地域になればと願っているところでございます。

簡単ではございますが、皆さん、この一年間本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

② 別府市PTA連合会 会長 大塚 俊夫

第38回を迎えます人権教育学級が、本日最後ということで、この一年間、大変お疲れさまでした。本会の目的は、人権教育学級で学んだことを正しく理解し、各家庭、学校、地域に持ち帰って正しい知識を得た人たちが、広報で広げていくということで開催させていただいています。できましたら、今年一年の学びを周りに伝えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。・・・(中略)

今年、PTAの全国大会に行った時に、メンタリスト DaiGo さんの講演を聞きましたので、そのことをお伝えしようと思っております。

子どもがよく勉強ができない、運動ができないのは、親のDNAだ・遺伝だという話になることがありますが、実際に遺伝的なものは4割ぐらいらしいです。あとの6割は、周りの環境が影響するという事です。だから、気にしないでくださいと言われてました。残り6割は、どこで決まるか、子どもから大人になる間にいろいろあるけれど、友だちづきあいも大きいと言います。アメリカの学者が3000組の一卵性双生児の成長を追跡調査したところ、基本的な性格というのは同じだが、兄弟、姉妹でも全然性格が違うのは、育った環境によるものだという事にたどり着いたそうです。元々の基礎というものはあるけれど環境がすごく大事ということで、「今日学校どうだった?」「今、友だちとどんなことしよんの?」「あの時の話は、今、どんな話になっちょんの?」など、どんなことでもいい、子どもとコミュニケーションを図ることが大事だと強く感じました。・・・

「子どもは親の背中を見て育つ」という言葉がありますが、「今日PTAきつかったのよ。でも、楽しかった。」と、子どもと話をする中で、子どもは、PTAの活動から帰って来る親の姿を見ながら、「自分たち子どものために頑張ってくれているんだ。」と分かってくれると思っております。・・・

子どもたちがこれからも健やかに育っていきますように、別府市PTA連合会も精いっぱい頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

最後になりますが、今後、皆様のご健勝とご多幸、そして、益々のご活躍をご祈念いたしまして、ご挨拶に代えさせていただきます。本当に、一年間お疲れ様でした。



大塚市P連会長

3 主催者・共催者・担当課職員紹介

- 教育長 寺岡 悌二 ○市P連会長 大塚 俊夫
- 生活環境部長 安藤 紀文 (他の公務のため欠席)
- 人権同和教育啓発課 (課長 宮森 久住 他)

4 託児担当者の紹介とお礼のこたば

- 上村 京子さん ○松井 真矢さん

お二人が温かくお子様を見守ってくださったおかげで、参加された方も安心して無事に人権教育学級を受講することができました。本当にありがとうございました。



託児のお世話をしてくださった松井さんと上村さん

5 一年間のまとめ

- ◇最終的な一年間の参加延べ人数は**516名**（ただし、2回目は都合により中止）でした。
- ◇令和元年度の別府市人権教育学級のアンケート結果の概要をもって一年間のまとめとしました。

令和元年度 別府市人権教育学級のアンケート結果の概要

令和2年2月13日（木）現在

先般、園や学校を通じて、アンケートを実施させていただきましたが、今回はその結果の概要をお伝えします。 集約数 63人

①別府市のホームページに掲載している「人権教育学級」の概要を見たことがありますか。

これについては、「たまに見る」が39.6%という回答をいただきました。
⇒HPをご覧になり、少しでも啓発の機会に活用していただけると幸いです。来年度も、できるだけ講座の内容を分かりやすく伝えるよう、HPの充実に努めていきます。

②参加回数（1月までの分・・・ただし、7月の講座を除く）

これについては、1回という方が一番多く38%、次に2回という方が23.8%で、6回全部に参加という方は3.1%でした。⇒社会の変化とともに多忙化が進む中、各単Pでそれぞれ家事や育児、仕事などをやり繰りしながら、この会へ参加していただいていることに心から感謝します。できるだけたくさんの方にご参加いただきながら、「人権」に触れるとともに、「人権を考えていく」きっかけにしていいただければと思います。

③今後の講座の希望（複数回答）

子どもに関係した人権課題を希望される方が60.3%と最も多く、次に、さまざまな問題（インターネット、LGBT、ハラスメント・・・）障がい者と人権、女性と人権、外国人と人権、医療と人権、高齢者と人権と続いています。⇒人権講座なので、基本は人権8課題についての学習になります。できるだけ受講生のニーズに沿えるよう努力していきたいと思えます。

④学習の場の生かし方（複数回答）

これについては、「家庭で」が最も多く65%、続いて「自己啓発」が52.3%となっています。また、「園・学校で」という方が19%、「職場で」という方が14.2%、「地域で」という方が9.2%でした。
⇒このことから受講生の皆さんが、学習したことをいろいろな場で生かしていることが分かります。

⑤学校での生かし方（複数回答）

このことについては、「PTAの会合等で報告会をもつ」が最も多く50%、続いて、「PTA新聞や研修部だより等に掲載」が33.3%でした。中には、「保護者同士の情報交換の場で生かした」という方もいました。
⇒今後も、各園や学校で人権啓発の取組みを工夫し、人権教育学級で学んだことを各園・学校のPTA会員の皆さんに広げていっていただければと思います。

⑥講座の感想等

たくさんの方の感想を寄せていただきありがとうございました。ここでは、すべてを紹介することはできませんが、「人権問題を意識し勉強できる大切な機会となった」「とても勉強になり、いろいろなこ

とを考えさせられる」「どの講師の方も人権を守ろうと考え、行動している姿に感動した」「知らないことばかりで勉強になった」「他の学校や幼稚園の保護者と話す機会が持てていい刺激になった」「みんなと話す中で同じような悩みを持っていることが分かった」など、講演や班の話し合いなどを前向きに捉えるとともに、これからの生き方に生かしていきたいという感想が多かったです。⇒人権教育学級の担当者として、所期の目的の達成感と共に来年度に向けてなお一層の充実を図っていきたいという思いになりました。

< 1年間のお礼 >

この一年間、ご多用の中、令和元年度の人権教育学級にご参加いただき、誠にありがとうございました。第7回までで、**延べ453名**の方にご参加いただいております。(2回目は都合により中止)平均にすると一回につき、**75.5人**の方に参加をいただいたこととなります。

学習会の進め方としては、講演⇒班での話し合い⇒発表(全体交流)という参加型の学習形態をとっています。中には、話し合いや司会、発表等が苦手という方もいらっしゃったと思いますが、運営にご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度も、万障繰り合わせて一人でも多くの方にご参加いただき、人権についてみんなで考えていければと願っています。この一年間、本当にありがとうございました。

6 受講生代表のこぼ話 ひめやま幼稚園 田原 朋子 さん

今年度、幼稚園の保護者会よりこの人権教育学級に参加させて頂きました。受講生の代表として発表するのは大変恐縮しますが、私なりの思いを述べさせていただきたいと思います。

この1年を通して学んだことは、「知らない、関心がない」ということは「人を傷つけてしまうことがある」ということです。

初回、「人権とは、人間が人間らしく幸せに生きていくための権利で、私たち一人ひとりに平等に与えられたものです」とのお話と人権8課題の説明がありました。その後にDVDを見たのですが、このDVDが衝撃的でした。視聴しながら、「えっ！こんなことも人権侵害や差別になるの？」と驚きました。そして「私も人権侵害や差別をしていたな。気を付けないとこれからもしてしまうかもしれない。」と不安になりました。

そうした気付きの後、人権侵害や差別について毎回異なるテーマで学んでいきました。第5回の「医療」では、人と異なる色の見え方(かつて、学校で受けた色覚検査)についてのお話がありました。講師の方も当事者で、理不尽な差別を受けた方々のお話を丁寧にしてくれました。第7回の「部落差別問題」では、大分の部落差別問題について幅広く解説がありました。歴史的な背景、部落出身者が受けてきたひどい差別、そんな中でも一生懸命に生きていた人たちがいた、などをお話いただきました。

受講したどの回も新しい気づきがあり、考えさせられました。いくつか挙げてみると、

- 自分ではどうにもならない理由で不当な扱いを受けて苦しむ人たちがいた。そして、今もいる。
- そのことを知らなかった、関心のなかった自分に気づいた。
- そのせいで「誰かを傷つけてしまっていたかもしれない」と振り返った。
- 過去も含めて事実を正確に知らなければいけないと思った。
- 人と接する時は、相手の外見や出身などの情報にまどわされずに、その人の内面を見ることができるようになりたい。
- 子どもたちのお手本になるのは難しいけど一緒に考えることはできる。

などです。

また、参加者同士で意見交換できたのも有意義でした。自分と同じ悩みを持つ方がいると安心し、前向きになれました。よいアドバイスももらえました。また、自分と異なる意見を聞いてさらに深く考えることもできました。

最近は自分の行動が変わってきました。メディアで人権関連の情報をよく見るようになりました。人と接する時は壁を作らず相手の人柄を知ろうと意識しています。身近な差別について子どもたちへどう伝えたらよいか考えることも増えました。ただし、いつも悩みながら迷いながらです。

初回のレジュメに「さまざまな人権侵害をなくし、人権が尊重される社会をつくるためには、私たち一人ひとりの不断の努力が必要です」との言葉がありました。今回学んだことを日頃の生活に生かし、微力ながらも不断の努力を続けていきたいと思います。

終わりになりますが、このように貴重な学習の機会をあたえて頂き本当にありがとうございました。

令和2年2月13日

別府市人権教育学級受講生代表

ひめやま幼稚園 育友会 田原 朋子



<代表として言葉を述べる田原 朋子さん>

7 終わりのことば